

平成24年度第2回「推進会議」の概要について

【会議次第及び内容（要旨）】

1 開会

環境生活部長あいさつ
推進会議会長あいさつ
新任委員・代理出席委員の自己紹介

2 議事

議題1 「県内の犯罪情勢等について」～治安概要の説明 - 警察本部 -

- ・ 平成24年9月末刑法犯認知件数...16,169件（前年比-163件、-1%）
車上狙い、ひったくり、強制わいせつ、自動車盗などが増加。特に自転車盗の増加が著しい[3,367件（前年比+305件、+10%）]。
年末にかけ増加傾向が予想されるが、関係機関団体と連携のうえ抑止を図りたい。
- ・ 平成24年9月末振り込め詐欺認知件数...28件、被害額約1億0,350万円（前年比-25件、+約4,940万円）
被害件数は減少傾向にあるが被害者が増加しており、昨日も名張市で還付金等詐欺被害が発生した。引き続き、情報発信や注意喚起による被害防止意識の高揚を図っていく。
- ・ 平成24年9月末不審者情報（声かけ・つきまとい事案）の認知状況...545件（前年比-3件）
積極的な情報発信に配慮するとともに、地域・自治体・学校等との連携を一層強化し、「話題」づくりに努めていく。

議題2 「防犯の絆づくり等について」～県事業取組の説明 - 環境生活部 -

(1) 安全・安心のまちづくりモデル地区支援事業

地域の自主防犯ボランティアの方々から種々の活動提案をいただき、優れた内容のものをモデル事業として委託し、支援していくもの。

本年は、南が丘地区安全パトロールの会の提案を委託事業とした。

(2) みえ防犯キャンパス

安全・安心を担う若い方々に対する防犯意識の高揚と地域への参画を目的に、主として大学生を中心とした防犯団体の積極的育成支援を事業として実施するもの。

本年は9月に鈴鹿市で開催の予定であったが台風の影響により中止となった。

3 講演

～「議題2 『防犯の絆づくり等について』」...活動事例の紹介～

(1) 安全・安心のまちづくりモデル地区支援事業の紹介

- 講演：南が丘地区安全パトロールの会代表 中島 格 氏 -

- ・ 活動拠点である「南が丘地区」は津市最南部の新興住宅地で、約3,800世帯、約1万1,000人が居住している。
- ・ 南が丘小学校（現生徒数850人）は、平成14年に文部科学省から「新しいタイプ

の学校運営のあり方に関する実践研究校」に指定されたことを契機に、保護者や地域住民が学校運営に参画できる「南が丘地域教育委員会」を設立した。

- ・ 平成15年以降、全国的に児童が被害者となる凶悪事件が多発したことで、同委員会は、「児童の安全確保」を最重要課題と考え、自治会組織等を通じて同区内におけるボランティア活動の参加を呼びかけ、同委員会の安全推進部会として「南が丘地区安全パトロールの会」が発足した。
- ・ 活動内容は、
 - ア 防犯パトロール
 - 通常パトロール...登下校時の会員6班編制による防犯パトロール
 - 特別パトロール...不審者情報認知による活動及び毎月5日の合同パトロール
 - イ 広報啓発活動
 - 広報紙「学校だより」の発行はじめ、防犯情報や会の活動広報等による啓発活動
 - ウ 防犯訓練・防犯講話
 - 警察等と連携による各種防犯訓練や防犯講話
 - エ 危険箇所点検
 - 年2回の防犯設備士を招へいしての危険箇所の点検及び地域住民との情報共有
 - オ 防犯カメラの設置
 - 平成23年9月、通学路であり危険箇所でもある地下道への設置が実現
- ・ 安全・安心のまちづくりモデル地区支援事業（県事業）
 - 事業名を「安全・安心な南が丘地域をめざして - 子どもと大人の絆づくり - 」と題して実施する。
- ・ 事業の具体的な内容は、
 - ア 講演会の開催
 - 著名な講師を招へいしての防犯講演会の実施
 - イ 防犯標語、防犯ポスターの募集
 - 小・中学校生、一般（高校生以上）を対象に実施し、優秀作品を表彰
 - ウ 防犯カレンダーの作成
 - 防犯標語、防犯ポスター優秀作品によるカレンダーの作成・配付
- ・ 地域一体となった合同パトロールの定期的実施により、会員の積極的参加と現役世代の会員拡大を目指し、今後の見守り活動や会の一層の強化・充実に努めていきたい。

(2) 大学生による防犯活動「地パト」の紹介

- 講演：四日市大学「地パト」メンバー 田中 勝利 氏 -

- ・ 「地パト」とは、地域防犯パトロールの略称で、平成22年冬から活動を開始した四日市大学学生有志を中心とした自主防犯ボランティアグループをいい、現在約10名の学生が大学近くにある団地の四日市市「あさけが丘」と朝日町「白梅の丘」の両地区で活動をしている。
- ・ 参加学生の地パトへの想いは、地域と大学を繋ぐ、コミュニティの絆、地域住民との触れ合い、防犯への貢献、無償の努力である。
- ・ 活動の主な内容は、
 - ア 防犯パトロール

学生による防犯パトロール活動を行うことで地域の防犯意識が高まり、「安全・安心なまちづくり」に繋がる。

イ 清掃活動

まちがきれいになることで防犯にも繋がる。防犯パトロールをしながら、ゴミ拾いを行う。

ウ あいさつ

地域の人々との親睦を深め、地域間の人と人の繋がりをより良いものにする。

学生が率先して地域の方々にあいさつをする。

である。

- ・ 活動は、毎週火曜日に、午後4時30分ころから約1時間程度の実施。
- ・ 活動の一環として、地パトニュースの発行、ゴミの分別作業、地パト会議を実施
- ・ 地パト活動の成果

ア 清掃活動でまちがきれいになり、より住み良くなった。

イ 活動を通じて四日市大学との繋がりができた。

ウ 地域の方々とコミュニケーションの向上が図られた。

エ 地域の方との顔の見える交流が実現した。

・ 課題

ア 仲間との意思疎通

イ 新しいメンバーの確保

ウ 活動時の自らを含めた不審者対策

エ 地元のニーズをしっかり受けとめる

(善意の行動も一方的になってはならない。学生と地域の協力・事前の周知・PRが大切)

- ・ 今後もメンバー間の話し合いを密に行い、活動が負担にならないよう「できる人が、できる時に、できる事をする」よう心がけ、モチベーションを持続させながら後進に活動を伝えていくとともに、併せて積極的な広報も関係機関のご協力を得ながら実施をしていきたい。

その他意見交換

- ・ 高齢者への情報伝達方策について

高齢者を含めた各種防犯関連情報の浸透方策については、巡回連絡をはじめ、老人会等の各種会合、商工会連合会、民生委員、新聞やヤクルトの販売店等の協力をいただいて実施しているところであるが、肝要なのは、地域での「話題づくり」として情報を取り上げていただき、これが高齢者の耳に届くような形で配意していただくことである。

- ・ 「地パト」の活動について

次代を担う大学生による素晴らしい活動であり、社会へ出る前の貴重な「実学」としての意味合いもある。いろんな面で積極的に支援をしていきたい。健康管理や交通事故防止に気をつけ、今後も地域防犯の牽引役として是非頑張りたい。